

事務事業評価

令和 3 年度

担当課

学校教育課

基本事項	事務事業名	心の教室相談員配置事業					整理番号	2311			
	根拠法令等	なし					実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
	関連する市勢振興計画の基本計画	目標	基本目標5 将来を担う人材と豊かな心を育むまちづくり			予算科目	10 款	3 項	2 目		
		施策	施策5-2 心の豊かさ、交流を生むまち			事業区分	その他				
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	いじめは大きな社会問題として取り上げられており、法整備を経て組織的に対策を行わなければならないほど深刻なものとなっている。特に小中学校ではいじめの発生が多く見られ、早期の発見や対応、適切な取り組みが求められている。					計画期間	始期	平成	11	年度から
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	中学校において、生徒が悩みを気軽に話せ、心のゆとりが持てるような環境を提供することで、生徒のストレスを緩和し、いじめの重大事案発生を未然防止する。					終期	令和		年度まで	
	目的達成のための 具体的手段・方法	全中学校に「心の教室相談員」を配置し、生徒の悩み相談や話し相手、家庭訪問等を実施し、学校における相談活動を行う。また、生徒のみならず、保護者との関りを含めた相談活動をすすめる。さらには、地域における情報収集、地域と学校の連携及び支援を行う。									
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 ( 内 容 )		単位	1 年度	2 年度	3 年度				
		①全中学校におけるいじめ重大事案発生を未然に防止する。いじめ実態調査において状況を確認し、0件を目指す。	目標	件	0	0	0				
			実績	件	0	0					
達成率	%		100.0	100.0							
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	①全中学校における相談件数を実績報告書により集計する。	目標	件	1,500	1,500	1,500					
		実績	件	2,298	1,534						
		目標									
事業費等の推移	年度		29 年度	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度			
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画			
	① 直接事業費(千円)		3,236	3,265	3,445	2,805	4,460	4,212			
	財源内訳	国 県 支 出 金									
		地 方 債									
		そ の 他									
		一 般 財 源	3,236	3,265	3,445	2,805	4,460	4,212			
	② 従事職員給与費 b1×b2		377	383	377	378	374	374			
	従事職員数(人) b1		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05			
	職員平均人件費 b2		7,546	7,663	7,530	7,563	7,482	7,482			
事業費合計 ① + ②		3,613	3,648	3,822	3,183	4,834	4,586				

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている 学校におけるいじめ問題は全国的に大きな問題となっており、その対処は最優先課題の一つである。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 学校管理下で行われることから、学校の設置者が行う必要がある。	A
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 現在の対象者は中学生であり、対象は妥当である。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 年間の相談件数は、目標に達しており、結果としていじめによる重大事案も発生していない。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 現在の対象者は中学生であるが、いじめは小学校でも発生しており、対象を小学生まで拡大することで、より効果が高まると考えられる。	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 年間の相談件数は、目標に達しており、結果としていじめによる重大事案も発生していない。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある すでに生徒数に応じて、相談員の勤務日数を調整している。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 相談業務において気になる案件は、速やかに管理職に報告があり対応がなされている。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 心の教室相談員への相談は対象者である全ての生徒に開かれている。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
			<b>判定評点平均（3点満点）</b> A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算
			<b>2.90</b>

◎ 総合自己評価（所管部署）		判断理由
評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施(特段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)	
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) 市内全ての中学校に配置したいところであるが、現在は募集に対して応募がなく、1名欠員の状態である。	
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載してください。		

【2次評価】

総合判定	A 継続実施(特段の見直しは行わない)
備考	年間の相談件数は目標を達成しており、いじめによる重大事案も発生していないことから、今後も、生徒たちの悩みに耳を傾け、心のゆとりを持てるような環境づくりに努めてほしい。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input checked="" type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	-248 (千円)